

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1770101598		
法人名	株式会社 北陸福祉医療開発		
事業所名	グループホーム レインボー2		
所在地	石川県金沢市入江2丁目210番地		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(有) エイワイエイ研究所		
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号		
訪問調査日	令和4年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中でのんびりあせらず個々の出来ることを活かし、役割を持ちながら共に生活を送るもの同士として信頼関係を築けるよう支援に努めている。
入居者様の重度化により、ホームで看取りとなる方も増え、ご本人やご家族様の思いを尊重し主治医とも相談しながら対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) ○
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,42) ○	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) ○
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：42) ○	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：40,41) ○	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) ○
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：53) ○	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31) ○	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)]

己	自	部	外	項目		自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		出入口の見やすいところに理念を掲げて、毎日の申し送りで共有し、役割を持つことで実践につなげている。				
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		新型コロナ感染予防対策のため、直接の交流はないが、くるみ保育園の園児さんから贈り物や年賀はがきを頂くなど交流をしている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		2ヶ月に1度、ホームでの出来事や認知症の方へどのように支援しているのかななどをレインポーだよりに掲載し、民生委員の方やご家族様にお渡ししたり、見学の方にもお渡ししている。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		新型コロナ感染予防対策のため、2ヶ月に1度文書にて入居者様の状況や行事の様子など報告し、ご意見なども書面で返信していただき、サービス向上に活かしている。				
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		施設の実情や取り組みなど、運営推進会議の文書でやり取りをしたり電話でもお伝えするなど、協力関係を築けるように努めている。				
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		玄関の施錠は日中はしておらず自由に出入り出来る。ユニット会議で拘束をしないケアを話し合っている。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		ユニット会議で虐待チェックリストを記入し振り返り、話し合い防止に努めている。				

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されていた方がおられた。相談があった際は活用できるように支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は本人やご家族の不安な点や思いをお聞きし、ご理解や納得が得られるように説明するように努めている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際にご家族やご意見や要望を聞きいたり、運営推進会議の文書でご意見、要望もお聞きしている。玄関には苦情相談窓口の連絡先など掲示している。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者にはユニット会議で困ったことや意見など伝えている。代表者には管理者より本部会議で伝えている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤手当や資格手当、役職手当の支給がある。公休希望も月に3日取れるようになっている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は一人ひとりの力量に合わせ研修を受ける機会を設けている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防対策のため交流は行っていいない。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の困っていることや要望をお聞き、少しでも不安を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族が困っていること、不安なことや要望などをお聞きし、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に合わせ、主治医やご家族とも相談し、在宅マッサージを利用したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を確認しながら、洗たくたたみやリネン交換、新聞たたみなど役割をなるべく共にしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された際に近況報告したり、本人と過ごす時間を大切にさせていただいている。状態が変わった時には状況報告を関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナで外出される機会はすくなくなっているが、一部の方は感染対策をしながらご家族と外出し、本人の知り合いのお寿司屋さんへ行くなどされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い入居者様に他入居者様が話しかけられても聞こえていないためスタッフが間に入って関わりが持てるように支援したりしている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際に何かあれば相談に来てくださいとお伝えはしているも、相談の連絡はほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中のコミュニケーションの中でどんな生活を希望しているかをお聞きし把握に努めている。困難な方はユニット会議で、本人がどのような生活を望んでいるのか話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話からどんな生活環境で暮らしていたのかなどをお聞きしたり、ご家族様にもお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の気分や体調に合わせ、本人の意思を確認しながら過ごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の思いや要望をお聞きし、日頃の様子なども見ながら、ユニット会議で話し合い、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の行動や言動は記録に残し、申し送りやユニット会議などで共有しながらケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院へ受診に行かれる際にご家族と一緒にいけない場合はスタッフが一緒に行ったり、介護タクシーを利用したりしている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋さんに散髪に来ていただいたり、ヤクルトさんの訪問販売を利用し買い物したりしていただいている。新型コロナ感染対策のため買い物などの外出は控えている。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に今まで受診に行かれないかかかりつけ医を希望されるのかホームの提携医に変更されるのかをお聞きし支援している。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調に変化があった場合は連絡し、状況を伝え相談し、受診を受けられるよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に本人のホームでの生活状況を伝えたり、入院中は病状をお聞きし、早期退院に向けて相談したり情報交換している。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今はないが、終末期の方がいた際にはご家族や本人、かかりつけ医と話し合い、ホームで出来ることを説明し、共に支援に取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。スタッフ全員が実践力を身につけているとは言えないが、何かあればホーム長に連絡する体制となっている。		
35	(13) ○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時にはホーム長に連絡したり、各ユニットと連絡を取り合い対応する体制となっている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14) ○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関と24時間連絡が取れるようになっており、支援体制が確保されている。		
37	(15) ○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時にはホーム長に連絡し指示を受けたり、かかりつけ医に連絡する体制となっている。		
38	(16) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しているが、スタッフ全員が身につけているとは言えない。 ホーム前の側溝が溢れた際は、止水板で対応したり町内の方が様子を見に来るなど協力体制もある。		
39	(17) ○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	スプリンクラーや消火器、火災報知器など設置されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
40	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し、さりげない声かけや耳元での声かけに努めている。		
41	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし思いをお聞きしながら支援しているが、意思表示できない入居者様には声かけし表情など反応を見ながら働きかけを行っている。		
42	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援するように努めているが、希望に添えていない時もある。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の長い方はゴムで結んだり、髪の毛が伸びてきたら本人の希望を聞き床屋さんに来ていただいている。ひげのそり残しはスタッフが援助している。		
44	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳できる方はご自分で下膳されたり、声かけにてお盆拭きをされている方がいる。テレビを観ながら食事される方やスタッフと会話しながら食事される方もいる。		
45	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせのある方はお茶をゼリー状にしたり、入居者様の状況に合わせ、おかずをみじん切りにしたり荒刻みにしたり、一口大の大きさにしたり、その方に応じ食べやすくしている。		
46	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部の方は毎食後歯磨きされている。介助が必要な方は義歯をはずし、洗浄剤につけている。		
47	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見、長い時間でトイレに行っておられない方には声かけし、トイレにお誘いしている。		
48	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂っていただいたり、水分を多く摂っていただいている。下剤を利用されている入居者様もおられ便秘の予防に努めている。		
49	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したいときに入浴していただいている時もあるが、全ての方が個々にそった支援となっているとは言えない。		
50	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときに休み、起きたい時に起きていただいている。 入居者様によっては、体の負担を考え、午前、午後の声かけし休息していただいている。		

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書に目を通し、薬の変更があった場合はスタッフ同士で申し送りをし、症状に変化がないかなどを確認するように努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗たくたたみやテーブル拭きを声かけにて出来る方にはしていただき役割となるように支援したり、コーヒーがお好きな方にはコーヒーを飲んでいただいたり、歌がお好きな方は歌を歌ったりしていただいている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防対策のため、外出は控えているが、感染対策をしながら、ご家族と外出し外食されている入居者様がいる。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金をお預かりし、ヤクルトさんが販売に来られた際にはお好きなものを購入される方がいる。買い物の際に、メモに欲しいものを書いてもってこられる方もおられ、買いたい物が買えるように支援している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話をかけられる方はおられないが、ご家族や親戚の方から電話があった際には取り次ぎ、会話していただいている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間がまぶしい時はカーテンを閉めたり、テレビの音が大きいときは音量を下げたり、入居者様が不快とにならないように配慮している。 季節感が感じられるよう、壁に装飾している。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士と一緒に歌を歌ったり、テレビを観ながら会話をされたりし過ごされている。ソファで独りでのんびりくつろがれたりされている方や居室にいたい方は居室で過ごされたりしている。		
58	(24)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族から届いた写真を居室に飾ったり、本人が持ってこられたタンスやテレビを本人や家族と相談し、居心地よく過ごせるよう配置したりしている。		
59				○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり居室には表札を掲げたり、トイレも表示をしてあり分かりやすいようにしている。歩行の際につかまりやすいように居間や居室、トイレお風呂場に手すりがあり、自立した生活が送れるように工夫している。		